

◎議長（佐藤平一郎君）

次、移ります。36番与口登美夫君

◎36番（与口登美夫君）

市長の施政方針について若干ご意見を申し上げたいと思うわけですが、非常にりっぱな施政方針を揚げておりますので、われわれが批判するところまでは、とてもまいらんとするわけでありましてけれども、多少、われわれなりに読んだ、あるいは聞いた内容によって、考えるところがありますので、お聞かせ願いたいと思うわけですが、生まれが悪いものですから、ことばの中で多少刺激があった場合においては、市長のほうでお許しを願いたいと思うわけでありまして。

私は、5日に市長から施政方針演説をお聞きしたわけですが、簡単に一口で申し上げますならば、3月3日の市長のお嬢さんに飾られてあるおひな様のようにキンキラキラと、非常にきらびやかである。が、しかし一面、おひな様には子供が見た場合に夢があるわけですがけれども、この施政方針には、私はよく市長と対談をし、いろいろまた、けなすことによって、そういうものが生まれるかも知れませんけれども、一見しただけでは、なかなか、そこまで汲み取れるような夢を盛ってあるところまで理解されないんじゃないかというふうに考えるわけでありまして。すなわち、この市長の施政方針全般を見た場合に、あらゆる柏崎市に対するものを実施されようとして書いてあります。一見、どこをついても、みんなやると書いてあるわけですから、まあ実に、むだのない方針であるわけでありましてけれども、これらの点において、やはりそこに、私は多少頭が悪いので、ごまかされる要素があるのではないかというふうに考えるわけでありまして。

で、まず、市長も「前言」から入っておりますので、私も多少、情勢分析のところから入ってまいりたいと思うわけでありまして。

大体、昭和30年以降、わが国は、高度経済成長をやってまいったという点については、すでに皆様もご承知のとおりであります。わが国は終戦後、外資法、あるいは制限貿易というような障壁に守られて、われわれが予期した以上の成長をなし遂げてきました。しかし、後半、市長が述べられているように、貿易の自由化、資本の自由化ということで、40年以降は、われわれにとっては非常にきびしい開放経済を迎えるであろうと思われるわけですが、その中であって、わが国は、「追いつけ、追い越せ」ということで、非常にその旗印のもとで、重化学工業を中心にして発展をしてきたわけでありまして。そして、この天然資源のない日本においても、輸出によって、世界における経済・生産力は第3位という輝かしい実績を持つに至りましたけれども、生活のほうは残念ながら26位であります。そういう状況下で、さらに最近英国におけるポンドの切り下げ、あるいはそれによるアメリカのドル防衛策、そして最近後進国育成ということで特惠供与の関税問題、さらにまた最近米国の課徴金の賦課というような点で、43年度の経済界は非常にきびしいものが来るだろうという判断をいたしておるわけでありまして。

しかし一方、わが柏崎の経済状況を見た場合に、はたして、われわれは、30年代に日本の国と同様な進歩をやってきただろうか。わが柏崎の経済には、日本の国

で投下したような重化学工業というものが主力の生産としてなかっただけに、私はそういう発展は、してこなかったと思います。その結果、われわれは表日本に比べて非常に格差がつけられ、しかも物価上昇は同じあおりを受けて、市民の生活というものは苦しい状況であると思います。これらについて、先ほどいろいろ午前中の説明の中にあつたように、もちろん10パーセントの成長率はやってきただろうけれども、「追いつけ、追い越せ」というのが、常にわれわれの念願でありました。額で追いつかなければ何ら意味がないのであります。従来10万円の所得があつたところは、10パーセントだから1万円であります。もし柏崎がかりに1万円の所得であつたとするならば、その伸びはわずかに1,000円であります。こういうように、やはりわれわれは「追いつけ、追い越せ」ということは、常にこれからなすべき仕事であります。したがって、私は、施政方針が立てられる場合に、表日本、あるいはまたわれわれが対照する関東経済圏に追いつくためには、柏崎市は当面、サラリーマンの所得の目標はこうなんだ、幾らなんだ、あるいはまた農業の1軒当たりの所得はこうなんだ…。各産業別に、商店別に、現状にあつた目標を示して、これに柏崎が追いつき、追い越す場合においては、具体的にどういう産業を入れるべきか、あるいはどういう手を打つべきか、どういう設備投下をやっていくべきかということを、私は施政方針の中に明確にうたい込み、それを実施し、先頭に立っていくことが、私は市長の仕事であると思います。そういう点について、私は少し、市長のこれに対して、もの足りないを感ずるわけであります。そこで私は、それらのものを具体的に示した場合に、どういうものを柏崎に取り入れるべきか。われわれは、メリットあるものを選別することが常に議員の仕事であると思うのでありますが、今後ますます市長において、そういう意味のバイタリティーを燃やしてやっていただきたいと思うわけであります。

そこで、前言はそれくらいにいたしまして、昨日出されました、そういった点から、柏崎市の現状を認識し、郷土の発展という点において、そういった点の分析が足りないのではなかろうか。あるいはまた、予算の説明にしろ、各課長から出されるいろいろな説明にしろ、従来の域を脱していないような感じがいたします。特に私は頭の悪い点があるかもしれませんが、常に、大学生に説明するときには新制中学に教える気持ちで教えろということわざがあります。もう少し、ことしの方針について、道路はどう直すべきか……それは数字も必要でしょう。ことばも必要でしょうけれども、図で、どことどこが舗装されるのかという記録的なものを出したり、あるいは砂利にしろ、保育所にしろ、増設をやっている所を、もう少し図等をまじえていただければ、われわれも理解でき、市民の皆さんがわれわれに聞いたとき、簡単にここが柏崎はこう変わって、いまより皆さんの生活に寄与する点が生まれるのだという説明をできるようにしていただきたいと思います。

それから「地域情勢」というところで、「後進性の強い当地域において、高い政治力の総和によって発展する」と書いてありますが、次ページには、「ようやく当市の立地条件は、他市に負けない水準に到達した」というような書き方があります。私は、これが、どこの市と比較して立地条件が恵まれているのか、疑問を抱いているわけであります。私たちは、常に表日本、あるいは関西、関東、この辺を目

ざし「追いつけ、追い越せ」という点で、がんばっているわけではありますが、私は、これらの点から見ても、立地条件が、採算性を常に考えている民間企業が当市に来る素地は全然できていないという考え方からして、この文章はおかしいのではないかというふうに考えます。

かつ、後進地域という点で、一番われわれが打撃を受けているのは雪害……表日本と全然変わらない交通網、こういったものが一番だと思いますけれども、雪害対策に対する心がまえこれが私は1言ものっていない点について、若干問題を感じます。

次に、労働力の確保、あるいは農業の近代化等についても、いろいろ述べられておりますけれども、先ほどから申し上げますように、具体的な当市の発展状況を分析しながら、それを実行に移す手ほどきを書いてあるならば、それによって労働力というものはとどまるのだという姿勢というものがこの中に出ておるのではないかと思います。多少消極的で、労働人口、特に若い人たちがとどまるならば、当市は後進性から脱するであろうという分析は、私はおかしいと思います。

次に自衛隊の問題について、2行半のっておりますけれども、高田、新発田にあるから柏崎市もおいたほうがよからうと。この施政方針演説は、新聞紙上で市民全員が見ております。この程度では、いままでの経緯から、長い議員さんには、市長の心は汲み取れるであろうけれども、「このような面からも好ましい」という、10そこらの字で新聞にのせられたのでは、市長がどういう意味で自衛隊が柏崎に来たほうがいいのかということを理解せずに、いろいろ解釈し、問題を呼び起こすと思います。

また柏崎は、中越圏内にあって、最も柏崎港というものを重要な拠点だとして書かれておりますし、当然であろうと思いますけれども、やはり中越はそのような役割りで、柏崎の隣に長岡というまた大きな経済圏があるわけであります。この辺の連絡、密着度合というものを明確にやらなければ、果す役割りについて断言を下すことは非常にきびしい問題があると思うのです。この辺も一応お聞きしたいと思います。

次に原子力発電所について。私は将来、ガス問題にしる、石油問題にしる、短い命であると分析をいたしております。おそらく、われわれは2次産業を中心とする工業の進歩は、原子エネルギー以外にはないと私は断定をいたしておるわけですが、この段階で調査を待つという程度では手ぬるいのではないか。われわれも委員会を設置し、この辺は、もう、そろそろ強力に勉強し、推進しなければならない段階だと思います。

また天然ガスについても、すでにブルネイガスは、昭和46年10月に20億立方がほぼ入ってくるということが確定されております。しかし、これを使用し、どう産業に役立たせるか、これがやはり柏崎にとって大事な点であります。この辺の取り組みもいたって消極的であると私は考えます。

以下の点から、「新年度の予算等についても特に積極的な施策を」と、のっておりますけれども、予算面から見て非常にまだ、柏崎は重点施策は何で、予算にどう魅力的に盛ったかという点について、私は明確にされていないと思います。

そのほか、いろいろ人事合理化の点、あるいはまた先ほどから多々出ております国保の問題等ありますけれども、私はこの点については、時間の関係上、ダブリますので、省かせていただきたいというふうに思うわけですが、自宅問題等についても、ここで単に、ことし20戸つくるといような文章でなく、柏崎の住宅不足は何戸あって、どう困っているか。これをことし20戸つくって、3年後、あるいは4年後に解消するのだというところまで施政方針には明確に出してもらいたい。20戸つくって何年かかるか。入れない市民にとっては、わずか20戸は非常に希望の持てない数字であるが、しかし、これが、かりに40戸で解決するとなれば、現在、入っていない人には非常に明るい数字になる。私は書き方によって、非常に具体的な方針というものが、より実現できるものではないかというふうに考えられるわけであります。

非常に浅学非才な、まだ経験年数の若い議員でありますので、多少市長から批判の点もありましたら、遠慮なくご答弁で批判されてもかまいません。どうもありがとうございました。

◎市長（小林治助君）

施政方針演説について貴重なご批判をいただきまして、ありがとうございます。

いつも申し上げていることですが、当地域の発展というのは、一拳にしてできないだろうということは、これは申し上げるまでもありません。やはり裏日本が表日本に匹敵するための産業基盤を整備していくためには、まず、どうしても公共事業を導入して、そして産業の立地条件を高めていかなければならん。これが前提にならなければならんと思います。しかし、先ほどのようなお話で、日本の重化学工業というようなもの、そういうものが日本の経済に非常な貢献をした。しかし、柏崎方面にはそういうものは立地はしていない。また、そういう点についてのご質問といいますか、ご批判の節がちょっとのみ込めなかったのですけれども、要するに裏日本の開発をしていって、そして産業の立地基盤を整備していく。そういうものに対して、どういう産業を誘致すべきか。それは、どういうふうになるのだと、具体的なところまで持っていきたいんだ、そういうところまで具体的に示したほうがいいんじゃないか。こういうご意見でございますが、これは当市の力ではちょっとできないと思います。なかなか事務的にも……たとえば、所得を計算してまいる場合においても、ようやく40年の分析をやるにいたしましても、これは相当なものがようになってきます。統計の事務的なものを分析していくということは、なかなか困難です。しかし、うちでは、できるだけそういう統計等についての生かし方、それらから出てくる数字の上に基づいたいろいろな施策の展開、これらについて十分注意を用いるつもりでございますが、ご期待されておるような、そういうところまではできない。このように私は思っております。

それから、いろいろお話があったわけですが、もっと、ひとつ、内容的なものを聞かしたらどうか。そういうものをのせたらどうかと、こういうご意見だと思います。特にことは、施政方針演説の中には、できるだけそういう細かいと

ころには触れないつもりです。あなたのご要望と逆の方向を取ったわけです。やはり施政方針演説は、柏崎市が長い目で見た場合に、どういう点に問題点がある、そしてその問題はどのような方向で打開していくべきか、こういう点に立った考え方をまとめて申し上げたつもりであります。道路がいつになったらどうなって、どこを舗装して、どの橋を直すのかという点について、施政方針の中には、実際問題としては、なかなか申し上げられないと思います。この辺はやはり、委員会あたりで十分、ご検討いただきたい、このように私は思っております。

それから、長岡との関係についてどのような関連性を考えているか、そういう面についても意見を話したほうがいいんじゃないかと、こういうご意見でございますネ。これらについては、私どもは、かねて、中越の総合開発計画というものを関係市町村で集まっていられるいろいろ検討し、それらの計画を立てているわけであります。これらについては資料なども全部できておりますので、長岡との関連性などについては、必要でありますならば、市長公室のほうで中越総合開発計画などもございますから、資料等をごらんいただければいいんじゃないかと、このように思っております。

ご質問に対して、何かとりとめもないようなことになったようでございますが、ご趣旨の……もっと具体的な、わかりやすい、何と申しましょうか、計画性と申しましょうか、そういうものをもっと揚げたらどうかというご意見に対しましては、これはできるだけそういうふうにしたいと思っております。たとえば、住宅地なんかでも46年の特定住宅造成計画というのがございます。これによりますれば、46年に200戸……県営住宅と市営住宅あわせて200戸の建設、半田団地に。というような、これははっきりしておりますので、そういうようなことを、特に数字的に明記しろ、そうほうがみんなにわかりがいいんだ、こういうご意見については、今後十分に配慮してまいりたい、このように思います。以上。

◎36番（与口登美夫君）

質問の内容について、むずかしいからできないと言われれば、それまでなんですけれども、私の言うのは、やはり柏崎市というものの台所すべてをあずかるのだから、柏崎がかりに東京都の生活水準、所得を目ざすならば、当市との比較の中で、それを何年度で実現してみせると。そのためには、どういうものを柏崎の中でやっていかなければ、柏崎はそこまで追いつくということはできないんだという点から認識して、市というもの、あるいは市長の方針を立てるべきでないか。何でもかんでも、あれもやる、これもやるというふうに、全部羅列的に並べておいて、それで施政方針です。すべてをやるんですという点は、私はそういう点について、重点的な政策がパッと見た人にはわからない。いわゆる強力なパンチがきいていない。そういう面で、私はそういう組み方をやったらどうかとお聞きしたわけです。

先ほどから、市長はいろいろ、質問者に対する答弁の中に……たとえば、農業者と勤労者の所得の比較を言っております。で、統計的には差のないような話であります。あれは全国的な比較であります。私は地域的な比較を言っているわけです。全国的な比較の中には、もちろん貧乏な勤労者もいるでしょうし、いろいろなもの

が総合されているわけですが、対地域的な場合は、同じ第1次産業であっても、関東と新潟の人たちの所得はかなり違う。第2次産業の所得者にとっても格差があるわけです。それらを縮めるということが、市長に課せられた重要な仕事であるということを私は申し上げているわけです。

そのほか、内容についていろいろ何点か質問をしたつもりでありますけれども、ご答弁しないということであれば、あえて私は再質問は申し上げません。

◎市長（小林治助君）

答弁しない点があったら、みんなするつもりでありますから……。先ほどお話になりましたところで、私がわからんところは実は答弁しなかったつもりなんです。というのは、おっしゃる意味がちょっとわからないものですから、答弁してみようがない。それで、先ほどもちょっとお願いしておったのですが、質問の要旨をあらかじめ、私のほうにお出しになっていただきますと、私のほうでも答弁がしやすい。これは議会のほうにもお願いしておった。たまたま、今回の与口さんの質問は、「市長の施政方針演説の内容について」というような項目しか出ていませんで、これだとちょっと、いまここで突然お話をいただきましても、お尋ねの趣旨がわかりかねる点がある。私はできるだけ、おっしゃることをひかえたつもりでございすけれども、もしご質問の、さらに具体的にどういうところとおっしゃっていただければ、自分の考えていることについては忌憚のないご意見を申し上げたいと思います。

前段の地域格差がある、そういうものは一体どういうふうに克服するのだというあたり、施政方針は抽象的だと。むしろ抽象的でなく、具体的に立地条件の改善をここにのせておるつもりです。このことは、かねて、私が市政に関係して以来、このことについては申し上げているつもりです。具体的に。

新しく出ましたのが、原子力の発電所に適地であるならば、ぜひともこういうものは将来の産業開発に備えて誘致すべきであるとか、あるいは裏日本の新幹線の計画が鉄道においてはボチボチ考えられているようであります。旧来、われわれは越後線の複線電化というものを唱えてまいりました。しかし、これらは次に来るであろう裏日本新幹線とあわせて考えてゆくべきであろうというような点。それからさらに、ようやく信越の複線・電化というものができます。電化は44年10月、それから複線は46年4月1日からできるであろう、これらのものは、そういうようなものができてこなければ、なかなか地域の格差というものは縮まらない。要するに、所得の格差というものが、産業が働きやすい基盤をつくって、そこに産業が生産性を高めていくような立地条件をつくるのが、まず一番大事じゃないか。じゃ、何をやっていくか。こうやっていくのだというあたりは、具体的に申し上げているつもりであります。

それから、なお、与口さんのほうには旧来の刈羽・柏崎の総合開発についての基本的な計画とか、具体的な予算計画、試案というようなものが行っていないかもわかりませんが、これらの地域開発についての具体的なものは、私のほうに資料がございすから、どうぞそういったものをごらんいただきたいと思います。それらのものを具体的に個々に説明しておりますと、1時間や2時間の施政方針演説では

なかなか語り切れないと思います。そういうことで、いまおっしゃるご趣旨のほどはよくわかりますので、できるだけ施政方針等を通じて具体的に、当地域が地域格差を縮めていくためにはこういうものややっていくのだ、ここらあたりは具体的にやっていかなければならない。ただ、それが何年にできて、何年に終わりますというのは、ものによっては見当のつくものもございますし、また、われわれの期待、目標というようなものもございます。なお、都市の開発等についての財政計画……起債がどれだけで、そして一般財源からどれだけの持ち出しで、この事業をするには何年間かかりますというのは、全部いままでつくってあります。大体その線に沿っていっておるつもりです。ですから、そういうものを何かの機会に、特別の機会に話をせよということでもありますならば、そういうものに基づいてお話をする機会があるかと思ひますし、なお私が話をしなくても、市長公室のほうでは、そういったものについては全部持っておりますので、そちらのほうでひとつご検討をいただければありがたい、このように思ひます。

◎ 36 番（与口登美夫君）

申し入れも悪いと言われれば、悪いかもしれませんが、あなたが出された施政方針ですから、この内容に限って私が質問をするということであれば、項目ごとに書いて出さなくても、当然私は、あなたが答弁できるところの内容を持っていると判断をしておったのです。もし、私がこの施政方針演説について質問したことについて、答弁できないということであれば、理解していないことを、あるいは考えていないことを、だれかが書いたということになると思うのです。その点、ちょっと私はおかしく感じたのですけれども、一応申し上げておきます。

それから、さっきから前段についていろいろ申し上げましたが、それは別として、この中の項目に、若干、立地条件の他市の水準との比較は、おそらく、あなたは、直江津か柿崎あたりと比べているのではないかという考え方がある。常に私たちは表日本の一流都市というものと比較するについて、あなたの見解がおかしいじゃないかという質問もいたしました。また長岡についても、また自衛隊の点についても、発電所の問題についても、取り組み方の姿勢が弱いではないかという質問も見られました。いろいろやっておったのでございすけれども、いかんせん、質問が要を得ずして、あなたのご理解を得られなければ、やむを得ないと思ひます。

◎ 市長（小林治助君）

与口さんが一生懸命に聞いているのに、何か質問と答弁が食い違っているようで……。この施政方針の演説内容を、おまえ、わかっていないで、だれかに書いてもらったのじゃないかという、こういうようなお話でございすが、この内容については、私の指示によってそれぞれ担当のほうで作文ぐらいはしておりますが、この内容については、全部私が過去何年間にわたって積み上げてまいりました…立地条件等、あるいはまた、ここで書いてありますものは、そういうことで、私は指示してやっておるわけでありす。

ただ、的確にお答えできないというのは、たとえば、先ほどの、表日本の比較を言っているのであって、おまえが言う他市に負けない状況になったというのは、そ

れは一体どこと比較をしているのかということになると、私の申し上げているのは県内のことを申し上げているつもりであります。じゃ、新潟はあれだけの新産港湾があり、直江津にはあれだけの港湾がある。それと比較してどうなんだと、こう言われれば、それは、そこまでの立地条件には達しておりません。しかし一番、旧来われわれが劣っておると思われる道路行政、道路交通、そういうようなものを見た場合に、県内の改良率等から見ますと、柏崎周辺の道路というものは、ようやく県内の平均より上回ってきました。その率を申せというのであれば……それは、おまえが書いたんだから、その範囲内でわかっているだろうとおっしゃったけれども、じゃ一体、改良率は県内の平均は幾らで、柏崎市内の改良率は幾らということになると、やはり資料を持たんと全部細かいところまでの数字は、私は覚えておりません。しかし、そういうような資料を上げて説明をせよというのであれば、そのように、また、あらかじめご指示をいただきたい。こう申し上げているわけでありま。す。たまたま、表日本との比較ということになりますと、おっしゃるように表日本の都市に決して負けないような状況になっているとは思っておりません。私が申し上げるのは、県内における各都市の情勢の中で……それが教育施設であつても、道路交通であつても、あるいはその他の施設であつても、まずまず当市の施設は、新潟県内における他の都市とはそう遜色のないところまで高まってまいりました、こういうことを申し上げておるつもりであります。

それから、原子力の取り組み方が少ないじゃないかというような点につきましては、いまからすぐ原子力の発電所に対する誘致あたりまで考えたらどうか。こういうことでありますと、まだそこまで行っておりません。ただいまやっておりますのは、通産省の委託を受けて県が荒浜地域の調査をやっているわけであります。3つの要件の調査が終わらないうちは、適地かどうかということとははっきり出てまいりません。ですから、私どもは、将来の産業エネルギーとしては、原子力は非常に大切なものだと思いますから、それぞれの筋には、こういう調査をやっておりますので、また皆さんから格別の応援を願いたいというような……。その程度のことがもの足らんというのでありませば、これは別であります。これらは皆さんからもいろいろお知恵を借りながら、これが適地であるというならば積極的な姿勢で取り組みたい、このように考えております。施政方針演説にもそういう意味で、これらは柏崎の産業立地条件を変える1つの大きな条件になるであろうということを申し上げておるわけです。

あるいはまた、これには関原のガス田についてのご質問がなかったわけですがけれども、いま与口さん、ブルネイのガスが46年には来るであろう、こういう見通しに立って、あの20億立方というものを地下に貯蔵できる、そういう可能性のあるりっぱな貯蔵庫的なものがあるならば、そういうところにつぎ込んで入れておけば、これは有力なる地下資源になることは間違いない。非常に有効ではないか。そういうあたり、一体そこが可能性があるかどうか。あるいは入れるものができるかどうかというあたりについては、それぞれの機関に対して、いろいろ調査をさせてもらっているわけです。これは非常に有望だと思います。ただ向うが入れるかどうか、これは別問題です。別問題ですけれども、そういう貯蔵できる立地条件があ

るということになるわけであります。これは一がいに、いまおっしゃるように、会社が生産計画を立てるように、いつ、どれだけの労働生産性を高めていくには、こうやって、こうやると。こうやられれば一番いいわけです。そういうのが一番よろしいのですが、そこまでは、まだまだ、なかなか、われわれとしても計画を立案することはできない。しかし、どのような道路にはどれだけの事業費がかかって、それはどれだけの負担がかかって、何年ごろまでやらなければならないというあたりの、そういう大きな計画については、それぞれの町村と相談し合い、また県とも相談をし合って1つの青写真と申しませうか。計画はできているわけであります。それに従って、われわれは仕事を進めている、こう申し上げておきたいと思います。まあ、おわかりになったかどうかわかりませんが……（「了解」と呼ぶ者あり）

◎議長（佐藤平一郎君）
暫時休憩いたします。

午後2時54分 休憩